



閉校記念式典

卒業式後の閉校記念式典。小川校長が「本校とかかわった人の数だけ学校は残り続けます。本校がこの幸多き今福の地にあったことを皆さんの心に未永く残していただきたいと思います」と式辞を述べました。

そして、校旗が生徒会長の川原君から小川校長の手に渡され、その後小川校長の手から寺田隆士県教育長に返還されました。

校歌斉唱では、涙ぐむ同窓生や教職員の姿も見られました。

松浦東高等学校のあゆみ

- 昭和24年7月24日
・長崎県立北松高等学校今福分校
開校式・第1回入学式
- 昭和30年4月1日
・長崎県立北松農業高等学校今福分校と校名変更
- 昭和41年4月1日
・長崎県立松浦園芸高等学校として独立
- 平成4年4月1日
・長崎県立松浦東高等学校と校名変更
- 平成23年3月6日
・閉校記念式典開催

Interview



北松農業高等学校
今福分校
第9回卒業生

福村 ^{まさかつ}正勝さん
(宮崎県延岡市在住、
67歳)

本校の卒業生であることを 誇りに思います

在学中は陸上に打ち込みましたね。5000m 競技でインターハイ出場や国体での5位入賞を果たしたことなどが思い出されます。私の活動の原点は、この母校にあると思っています。

母校の規模が大きくなっていくにつれうれしく思っていたのですが、昨年、閉校の話を聞いて残念に思いました。今日は母校最後の日をこの場所で過ごしたく、延岡から駆け付けました。寂しいけれど、本校卒業生であることを誇りに思いますね。



松浦東高等学校
小川 琢次 校長

Interview

地域の方々にたくさんの思い出を
いただきました

東高は、これまで地域に根ざす学校づくりを目指してきました。地域の皆さまにご迷惑をお掛けした時期もありましたが、最後は山口和秀前校長の意思を引き継ぎ、教職員、生徒が一丸となって、地域に恩返しをする気持ちで取り組み、有終の美を飾ることができたと思います。

地域の方々に感謝の気持ちを持って取り組んだつもりが、逆に地域の方々にたくさんの思い出をいただきました。子どもたちは郷土の良さも分かったことでしょう。

閉校は残念ですが、いつまでも地域の方の心に東高を残していただければ幸いです。お世話になりました。

閉校記念演奏・
アトラクション

閉校記念式典の後、閉校記念演奏とアトラクションとして、村尾憲広さん（今福・仏坂）を中心とした同窓生による「僕らの学び舎」の演奏と、卒業生による「和一処」の披露がありました。

「和一処」演舞では、掛け声と大きな拍手が会場いっぱいに広がりました。東高生と教職員、同窓生、地域が一体となった演舞で、東高の最高のフィナーレを飾りました。



松浦東高等学校

— ありがとう —

地域とともに歩んできた東高。62年の歴史はここで終わります。しかし、それぞれの心の中に東高との思い出がある限り、いつまでも東高はそれぞれの心の中で輝き続けることでしょう。